

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第1回 上越市博物館協議会

2 議題

令和5年度事業実施状況（公開）

- ・上越市立歴史博物館
- ・上越市立水族博物館

令和7年度事業計画（案）（非公開）

3 開催日時

令和6年8月22日（木）午後1時30分から

4 開催場所

上越市立歴史博物館 講堂ほか

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

(1) 委員

浅倉有子、武石勉、小原清文、保坂清美、渡辺裕子、山下優子、渡邊憲一、坂詰つぐみ

(2) 事務局

- ・文化行政課 新保課長
- ・歴史博物館 花岡館長、平野副館長、荒川係長
- ・教育総務課 瀧本課長、小酒井副課長、太田主事
- ・水族博物館 和田館長、野々山副館長、小室副館長

7 発言の内容

令和5年度事業実施状況（公開）

(1) 上越市立歴史博物館

【歴史博物館資料 1～7 ページに基づき説明】

（浅倉部会長）逸品展示「どうする康政榊原家資料展」では展示解説会は行ったのか。展示解説会は企画展のみの実施か。

（花岡館長） 展示解説会については、内容にもよるが、令和5年度は企画展のみで、逸品展示では行っていない。

(浅倉部会長) 逸品展示「どうする康政」は前年度からはじまっているが、トータルでの入館者はどのくらいになったか。

(武石副部会長) 令和4年度事業実施状況の資料のなかで、令和4年度分の逸品展示「どうする康政」の入館者数は3,479人とある。

(花岡館長) 逸品展示「どうする康政」は令和5年度の実施事業であるが、観桜会の開催にあわせて6日間だけ令和4年度として開催したもので、3,479人の入館者があった。令和5年度の入館者26,494人と合わせて、逸品展示「どうする康政」の入館者数の合計は29,973人となる。

(浅倉部会長) 逸品展示「どうする康政」の目標入館者数で30,000人とあるのは、トータルの目標入館者数か。

(花岡館長) 資料にある目標入館者数は、令和5年度での目標入館者数で、4月1日以降の数値である。当館の入館者数のカウントの仕方であるが、玄関入り口でのカウントと展示会場入り口でのカウントと二通りの集計をしている。リニューアルの際に、当館が高田城址公園内の博物館として、公園内の散策や観光の拠点として施設の在り方を検討した結果、1階と屋上部分に無料スペースを設定した。そのために施設へ入館され、無料スペースをご利用された方も入館者としてカウントしている。

(保坂委員) 特集展示「高田盲学校資料展」の目標入館者数が資料で抜けているようだが。

(花岡館長) 特集展示「高田盲学校資料展」は令和6年度の実施事業ではあるが、観桜会の会期にあわせて令和5年度に3日間だけ開催し、入館者数は687人であった。令和6年度事業の目標入館者数は改めて報告する。

(浅倉部会長) 特集展示「高田盲学校資料展」を見学したが、とても良い展示だった。

(渡辺委員) 普段は瞽女ミュージアムで勤務しているが、特集展示「高田盲学校資料展」を見たお客様が瞽女ミュージアムにも沢山お越しになっていた。高田は日本で三番目の盲学校で、この地域はすごいですねという感想も多かった。盲学校の資料について、貴重なものだと思うが、触れる資料があればさらに良かったという声もあった。県外からお越しの方が多く、盲学校資料への注目が大変高かったと感じるとても良い展示だった。

(浅倉部会長) 新潟県立歴史博物館でも高田盲学校の資料は展示されていたが、どのような反応があったか。

(小原委員) 新潟県立歴史博物館での展示会は、「守れ！文化財」という5年間にわたるプロ

ジェクトの集大成の展覧会だった。資料の文化的な価値や教育の歴史に感銘を受けたという方が大勢いた。当館ではなかなか取り上げないテーマではあったので、評価は大変高かった。今回の特集展示へもいい形でつながっていったのではないか。

(武石副部会長) 令和5年度事業実施状況の資料では、それぞれの展覧会事業についての満足度が数字で示されているが、アンケートなどに書かれている感想や意見など、展覧会への評価を資料でも具体的に載せてもらえたら良いと思う。これまでの特集展示以外の各展覧会についての感想や意見などはどのような内容があったか。

(花岡館長) それほど沢山のアンケートが寄せられるわけではないが、年間100通以上のアンケートが寄せられており、令和5年度は150通程度。例えば、令和5年度企画展Ⅰ「頸城油田の盛衰」のアンケートでは、上越に油田があったことを初めて知って勉強になった、などの声が寄せられた。その他、年間のアンケートの中では、企画展示室の容量が小さめであることもあるが、展示資料の数など少し物足りないという声もある。アンケートに記入される方は、概ね展示内容には喜んでいただっており、好意的な内容で書いていただいている。今後の資料の中では、アンケートに記入されたお客様の声を具体的に紹介していきたい。

(浅倉部会長) 資料にアンケートの具体的な内容を載せてもらうと、展覧会をご覧になった方の反応や臨場感が伝わってくると思うので、是非検討してほしい。

(武石副部会長) 入館者数を増加させる取り組みとして、博物館と他の施設との共通券などはあるのか。条例の関係もあると思うが、春日山の埋蔵文化財センターなどとの連携が想定できるが。今年、北陸新幹線が延伸した敦賀に行ってきたが、3館共通券などの取り組みがあった。

(花岡館長) 埋蔵文化財センターは入館無料なので、博物館との共通券はない。共通券としては、2館共通券と5館共通券がある。博物館と高田城三重櫓との2館共通券のほか、この2館に加えて小林古径記念美術館や日本スキー発祥記念館・頸城区の坂口記念館との5館共通券がある。昨今の城ブームで高田城三重櫓を訪れる方の多くは博物館との2館共通券を購入されている。5館共通券は、1,000円での販売になるが、博物館と高田城三重櫓の2館共通券で620円、美術館は510円なので1,130円になる。高田城址公園内の3館(博物館・三重櫓・美術館)だけでもかなりお得になる設定。5館共通券は、各施設で販売するが、博物館と美術館での販売が多く、5館共通券を使ってスキー発祥記念館や坂口記念館

にお客様が流れていくという、市内の施設を循環していく流れが作れている。

(小原委員) 5館共通券は日付をまたいでも使えるのか。

(花岡館長) 5館共通券は、1か月間利用できる。

(浅倉部会長) 1か月間は効果がある。5館の中で坂口記念館は距離的に離れている。

(保坂委員) 入館者の統計を取っているが、リピーターかどうかはどのように集計しているのか。アンケートから分かるのか。

(花岡館長) 入館者統計についての現在のシステムでは、リピーターの割合を集計するのは難しい。アンケートの中に、博物館に来た回数について質問する項目を追加したい。

(小原委員) 新潟県立歴史博物館でも、アンケートに記入していただく方が、ごく一部の方というのが課題になっている。アンケートの回収率を高める工夫が必要。

(花岡館長) 現在のアンケートについては、手書きで書いてもらうアナログなやり方である。文化行政課のほうでは御城印に関するアンケートはデジタルで行っている。

(新保課長) Googlehome を活用したものだが、御城印の購入者が一律に回答してくれているわけではなく、ごくごく少数の方が回答してくれている。

(浅倉部会長) 大学の授業アンケートを手書きからデジタル式に変更したが、途端に回収率が悪くなった。アナログのほうはむしろ回答率が高いという結果になった。

(武石副部会長) 数は少ないかもしれないが、現在のやり方でも、アンケートに記入してくれた方の声を大事にしていくことが大切だと思う。話題が変わるが、令和5年度に寄贈された資料についての整理状況はどうか。

(荒川係長) 昨年度の寄贈資料については、歴史資料と民俗資料に大きく分けられるが、資料寄贈に際しては簡易的なリストを作成して手続きを行っている段階で、資料1点1点の調書などの資料整理までは終わっていない。

(武石副部会長) 新たに寄贈された資料の中で、これまでに知られていない内容の資料や博物館の展示や調査研究に活かせる資料などについてはデータ化を進めていくと良いと思う。

(花岡館長) 資料の整理を行って、データ化やデジタル化までしていくことが課題の一つである。限られた職員ではあるが、効率的に業務を進めているところである。

(浅倉部会長) デジタル化はとても大変な作業である。調書を取るだけでなく、1点1点を写真撮影しないといけない。

(小原委員) デジタル化は専門家が入らないと処理できないことが多い。京都市の事例では、

京都市歴史資料館が市内の関係館におけるデジタル化の成果を抽出して、京都市全体の歴史資料をデジタル公開する事業を進めている。新潟県内でも同じような取り組みをやりたいと思う。予算の面で課題もあるが、県内の博物館同士で共有できる仕組みを整えていきたいと思う。話題は変わるが、収蔵庫の収容率についてどのくらい余裕はあるか。

(花岡館長) 当館には収蔵庫は2ヶ所あるが、博物館と小林古径記念美術館でそれぞれ1ヶ所ずつ使用している。美術館は分離したものの、収蔵庫はまだ博物館に残している状態であり、この点も今後の課題として認識している。現状、収容率は8割から9割ほどで、余裕はない。岡沢拠点収蔵施設についてもすでに8割近く収容している。

(浅倉部会長) 今後、小林古径記念美術館内に収蔵庫を作る予定はあるのか。

(花岡館長) 現在のところ具体的な計画はない。

(小原委員) 新潟県立歴史博物館でも収蔵庫の余裕はなく、寄贈の申し出をお断りすることがある。

(花岡館長) 当館も沢山寄贈の申し出をいただくが、門前払いをすることなく、丁寧にお話を聞き、資料を実見した上で、寄贈を受けるかどうか判断している。上越地域で作られたもの、使用してきたものについては、できるだけ収集している。

(渡辺委員) 岡沢拠点収蔵庫の一般公開を見学したが、収蔵されている3万点という資料の数にびっくりした。民俗資料を収集することへの熱意に感動した。貴重な資料ばかりで、上越の宝だと思う。たとえば、佐渡の小木のように、集めた資料について、見せるための展示など見せ方に工夫してもらえともっと見学者が増えると思うし、観光へとつながると思う。

(花岡館長) 岡沢拠点収蔵施設を整備していくときのイメージが、収蔵すると同時に見せる展示をしている佐渡の小木民俗資料館だった。もう少し上手に収蔵している場所を見せる工夫をしながら、少しずつ改善していきたい。

(新保課長) 民俗資料は毎年増えるばかり。博物館としては、まず資料を守る・残していくことを第一に、収蔵保管をしっかりと進めている段階であり収蔵した資料を見せる展示については次の段階になる。

(小原委員) 新潟県立歴史博物館でも、民俗資料の収蔵スペースは余裕がない状況で、担当は集めたいと思っても、同じ資料についてはお断りすることが増えている。

(花岡館長) 集めた民俗資料については、しっかりと分析をして、その成果を新しい展覧会

のテーマになるとか、新たな文化財が生まれるなどの方向へつなげていきたい。

(浅倉部会長) しっかりと価値づけをしていくことで、周りの見方が変わっていくので、期待したい。

(武石副部会長) 企画展Ⅱ「むかしのくらし」の学校見学について、上越市以外からの見学はあるのか。

(花岡館長) 上越地域が多く、妙高市や糸魚川市の小学校からの見学がある。

(武石副部会長) 学校見学では、展示の解説案内に加えて、学芸員になった理由なども話すキャリア教育的な要素も含めると魅力が増してくると思う。

(花岡館長) 小学校3年生向けの展覧会なので、展示の案内だけでなくキャリア教育の内容を盛り込むなど検討していきたい。

(2) 上越市立水族博物館

【水族博物館資料 1～14 ページに基づき説明】

(坂詰委員) 令和5年度のマゼランペンギンの繁殖数が少なかったことについて理由はあるか。

(野々山副館長) 鳥インフルエンザの影響で屋外に展示していると罹患する可能性があるため、鳥インフルエンザ対応マニュアルに150km圏内で発生した場合、屋内退避することを定めている。本来は3月頃が繁殖期であるが、防疫措置が5月6日まで屋内収容期間となったことで、雌雄分離飼育の長期化によるペア形成の遅れと繁殖活動の低下が影響したと考えられる。6月の夏の暑い時期はほとんどのペンギンがプールに入っているが、繁殖時期が遅れると、親は子育てをする必要があるため、プールに入れず熱中症になる恐れもある。鳥インフルエンザ対応マニュアル作成時は、厳しい基準を設定していたが、昨年、上越教育大学の先生に話を伺い、現在は50km圏内で発生した場合に屋内退避に変更した。令和6年度は通常通り繁殖を行っており、10羽の雛が成長している。

(山下委員) 調査研究の成果について、思ったように成果が得られなかったことについても記載されていることが大切である。マイナス面も含めて啓発活動に繋がるため、一般にもっと周知すると良いのではないか。調査研究のマゼランペンギンの繁殖に関する調査に、育児放棄する可能性が考えられたとあるが、良い状態の時でも育児放棄はあるのか。

(野々山副館長) 良い状態の時に育児放棄はほとんど見られない。ペンギンは雄雌2羽で子育て

を行い、夏の暑い時期は親が暑さに耐えられず育児放棄することも考えられたが、育児放棄は見られなかった。日陰を作り、水を撒くなど暑さ対策を行った。マイナス面をわざわざ出すことはしていないが、小さいお子様に対して、話をさせていただくことがある。

- (山下委員) 自然環境には抗えない部分もあるが、そこに対する努力を感じた。
- (和田館長) 鳥インフルエンザによる屋内退避は、マゼランペンギンが鳥インフルエンザに罹患したから展示していないのではなく、防疫措置として屋内退避していると、誤解を招かないよう入館者の方に丁寧に伝える必要があるが、伝える機会も少ないため、SNS やホームページを活用するなど工夫していきたい。
- (山下委員) サクラダンゴウオの繁殖について、(公社) 日本動物園水族館協会の初繁殖認定に認定されるのはいつ頃になる予定か。
- (野々山副館長) 12 月頃に認定となるのが通例である。
- (山下委員) 初繁殖認定はあまりないものなのか。
- (野々山副館長) サクラダンゴウオは、太平洋側と日本海側に生息する種は同一種であるとされていたが、近年、太平洋側と日本海側に生息している種は別種であると分類され、日本海側に生息する種にサクラダンゴウオという名がついた。太平洋側の種については既に繁殖された実績がある。サクラダンゴウオという名前から、桜に関連した企画も考えていきたい。
- (坂詰委員) イルカショーを行っていることについて、世界的にショーを行う国が減っているが、水族博物館の今後について考えはあるのか。
- (野々山副館長) イルカパフォーマンスを行うことの意義は、イルカが動くことや考えることが必要であることにある。
- (和田館長) 様々な意見はあるが、動物の魅力的なところを学習という側面から飼育展示し、教育的要素として皆様に知っていただき、興味・関心を持っていただくという社会的な貢献を果たしていくことは今後も必要であると考えます。
- (坂詰委員) 今後の方向性として、ショーやパフォーマンスではなく、自然界におけるイルカの必要性を説明する方向性にシフトチェンジしていく必要があるのではないか。
- (和田館長) 現時点で我々が提供しているパフォーマンスに関しては、後者の考えだが、夏に関してはスプラッシュを押し出し、季節感を演出するショー的な側面はある。八景島本社もショーではなくパフォーマンスという取り扱いである。

- (渡邊副部長) 他の国でイルカを飼育している水族館では、イルカのパフォーマンスは実施しない方向で進んでいるのか。イルカ・クジラについて、海外では日本人が持っている感覚と違い、様々な運動も行われているが、パフォーマンスに関しても取りやめる流れが強くなっているのか。
- (野々山副館長) そういった考えが強い国ではパフォーマンスをやめることが進んでいる。取りやめた国の声が大きいため目立っているが、国の数はそれほど多くない。
- (渡邊副部長) イルカは精神的な面で癒しになると、治療に利用する国もあるようである。
- (和田館長) 世界的な流れについては先が読めない。個人の知見でしかないが、将来的に大きな流れになる可能性はある。その場合に、水族博物館として、自治体として協議する必要がある。
- (山下委員) ナイトイベントに参加した際に、イルカがまったりとしており、普段と異なる姿を見ることができる良い機会であった。
- (和田館長) イルカには色々な側面の魅力があると考えます。飼育下でも魅力的な生物だが、野生下のイルカに出会うのも違う感動がある。野生のイルカが海水浴客を怪我させたとのニュースもあるが、それもイルカの一面である。
- (野々山副館長) まったりしている姿が見られるということは、しっかりと飼育ができており、イルカがリラックスしていると言える。
- (坂詰委員) 時間を決めてパフォーマンスを行うことは違和感がある。パフォーマンスではなく、イルカの自然な姿を見せるのも良いのではないかと。
- (野々山副館長) (公社) 日本動物園水族館協会が動物を自然に見せる方向にシフトしている。
- (渡邊副部長) 教育普及事業について、バックヤードツアー、レクチャーといった参加体験型の需要が多いのではないかと。福井県の恐竜博物館の体験プログラムは人気で予約が取れないと聞く。透明標本の作製体験や魚の同定など、人気のある教育普及事業があると水族博物館の1つの特徴になる。
- (山下委員) 令和5年度事業実施状況と令和7年度事業計画(案)について説明があるが、今年度の現状報告があってもよいのではないかと。
- (和田館長) 令和6年度の実施状況について報告させていただく。昨年は特別展「あつまれどうぶつの森」とのコラボレーションを実施したが、今年度は「すみっこぐらし」とのコラボレーションを実施している。ナイトイベントについては「DEEP ナイト」を8月3日と24日に実施、8月8、9、10日に夕方の延長営業「Sunset Chilltime」を実施。ゴマフアザラシの子獣が令和5年度末に誕生し、計6頭の

ゴマフアザラシを飼育している。マゼランペンギンの繁殖について、令和6年度は10羽の雛が成長している。体験イベントとして、タッチングプールで参加者に胴長を履いていただき、海の生きものを観察する企画を実施している。博物館協議会で提案いただいた水族博物館の歴史についてのパネル展示を下期に予定している。

8 問合せ先

上越市立歴史博物館 TEL : 025-524-3120

E-mail : museum@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。